

## ヤング ハンティング

- 一 「お願いだから これ以上  
僕をここに 引き止めないで  
ゲーリックの城にはいとしい恋人が  
おまえより三倍も愛する人がいるのだから
- 二 「いとしいひとは足でさえ  
おまえの顔より もっと白い」  
「それでもここに ハンティング様  
私と一晩いてください」
- 三 女から  
とびきりのビールとワインを振舞われ  
ハンティングは  
酔って狂った牛のよう
- 四 女から  
とびきりのビールとワインを振舞われ  
ハンティングは  
酔って狂った豚のよう
- 五 女はハンティングを抱えあげ  
ベッドの上に寝かせました  
・  
・  
・  
・  
・  
・
- 六 女はガウンの下に隠しておいた  
短い剣を取り出して  
ハンティングを  
深く深く刺しました
- 七 頭のあたりを飛んでいた  
きれいな鳥がさえずりました  
「お嬢さま あなたの緑の服が  
どうか血に染まりませんように」
- 八 「私の緑の服が  
この人の血に染まらぬように  
おまえのそのおしゃべりな舌が

動かぬようにしなくては

九 「降りておいで 私のかわいい小鳥さん

さあ 私の手の中に

・  
・  
・  
・  
・

一〇 「銀を 褒美にあげましょう

金を 褒美にあげましょう

月ごとに

新しい鳥かごを あげましょう」

一一 「いいえ 降りてはゆきません

あなたの手には とまりません

降りたら最後 ハンティング様のように

殺されるのが おちでしょう」

一二 ハンティングに 狩りの姿そのままに

靴を履かせ 拍車をつけて

首には 狩りの角笛を

腰には剣を さしました

一三 クライド川の 暗い水辺へ

ハンティングをつれてゆきました

・  
・  
・  
・  
・

一四 深い深い川の底

ハンティングを沈めました

深く沈んでいるように

胸には緑の芝を置きました

一五 ある日のことでした

王様は狩りへ行こうと思いたち

ハンティングに お供を勤めるよう

使いをだしました

一六 女はあたりを見回して

麦に誓っていました

「あなたの息子 ハンティング様には

昨日の朝から会っていません」

一七 女はあたりを見回して

月に誓っていいました

「あなたの息子 ハンティング様には  
昨日の昼から会っていません

一八 「クライド川で

溺れて死んでいるのでは」

王様は ハンティングを探すようにと  
潜水夫に使いをだしました

一九 あちらこちらと もぐって探し

ぶつぶつ不平をいいました

「沈んでいるのが 俺らの兄弟だとしても  
もう探すのは うんざりだ」

二〇 頭のあたりを飛んでいた

きれいな鳥がさえずりました

・  
・  
・  
・  
・

二一 「クライド川で溺れたのではありません

殺されて川に沈められただけ

あそこのお城の色黒女が

殺して川に捨てたのです

二三 「昼に探すのはおやめなさい

夜になって探すのです

かわいそうな騎士が沈んだところで  
ろうそくが 明るく輝くでしょう」

二三 昼に探すのは やめました

夜になって 探しました

かわいそうな騎士が沈んだところで  
ろうそくが 明るく輝きました

二四 深い深い 川の底

ハンティングを見つけました

深く沈んでいるように  
胸には緑の芝が置かれていました

二五 王様は 茨やシダを刈るために

家来を森へやりました

女を燃やす

薪たきぎをたくさん手に入れるため

女は叫んでいました

「やったのはメイ・キャサリンよ」

二六 メイ・キャサリンを連れてきて

薪たきぎの上に乗せたとき

恐ろしい罪を雪ぐそそ

炎は 頬を焼きません

炎は 顎を焼きません

炎は 金髪を焼きません

二七 一同は メイ・キャサリンを降ろして

女たきぎを薪に 乗せました

炎は 頬を焼きました

炎は 顎を焼きました

炎は きれいな体を焼きました

真っ黒焦げになりました